



東京工業大学土木工学科創設の思い出

日本河川協会会长 筑波大学名誉教授

椎貝 博美



東工大土木工学科の創設については、東大と京大の間に一種の確執があった。現在ではこの二つの大学は仲がよいが、私が大学院博士課程中退で東大助手に採用されたとき、二つの大学間の競争意識が高かったので文部省は閉口していた。

結局東大が地元の利を占めて世話校に指名された。そのとき東大の教授、助教授の先生方は東工大に移籍するのを躊躇されたので、世話人の本間仁教授（当時）と最上武雄教授（故人）は非常に困惑されたようである。

ある日私は指導教官の本間教授によばれ、「東工大に行って貰えますか」と聞かれた。私が、もちろんです、と答えると、それでは世話人の最上教授のところに行け、というので早速最上教授の部屋にお邪魔した。

「私が東工大にまいりますが」と申し上げると、先生は、有難う、と私の手を固く握られた。これにはちょっと困惑した。

東工大に挨拶に行くと、世話人である建築の藤本教授は大変喜んでくれた。その後京大の石原藤次郎教授（故人）にお会いしたので、この件を申し上げると、石原先生も喜んでくれた。あとで聞くと本間、石原の両先生はこの件で心を痛めておられ、まず本間、石原間で大学を入れ替わろうではないか、という計画を立てておられたのであった。

私は助教授で東工大に採用されることになり、教授は中央大から山口柏樹教授（故人）がこられることになった。

講座を形成するために助手が必要、というので5分ほど

ど面接して長谷川佐代子さん（現姓宇梶）を助手に採用した。

第一回生の授業が始まると、建築構造は建築学科の藤本教授、土質力学は山口教授が担当され、あとは教養科目を除いて私が授業をした。ある日沢本正樹さん（現東北大教授）に、授業中「先生、ほかに先生はいないんですか？」と質問を受けた。

山口教授に相談すると、「ああ、それなら次の授業は俺の上着を着ろ」というのでそのようにしたら学生は喜んだ。

この結果については東大だけではなく、京大の石原教授（故人）も喜んでくれて、学会の幹事にされ、しばらく石原先生のカバン持ちもやった。これがきっかけで後に京大の若い先生方と懇意になり、大規模な東南アジアの調査にまで発展した。これについては現在山梨大教授の竹内邦良さんが大きな貢献をした。

次第に吉川秀夫、日野幹雄、木村孟、長滝重義等の先生方が着任され、土木工学科は発展した。特に木村さんはその後東工大大学長も勤められた。また私が山梨大学に赴任したときは、砂田健吾さんに大変お世話になった。

筑波大学の武若聰さんとは霞ヶ浦問題でよく出会うし、技官だった佐藤郁太郎さんとも国土交通省の会合でよく会う。建設技研トップの大島一哉さんにいたっては、ときどき私の勤めている日本河川協会を訪ねてくれる。

私は結果として7つの大学に正規に勤務したが、その中でも東工大の思い出は尽きることがない。



中央左Prof. A.T. Ippen (MIT), 中央右Dr. Anat, 右筆者
1969年 AIT赴任時バンコクドゥシタニホテルにて



左筆者, 中央元AIT学長Prof. M.E. Bender, 右木村先生
1976.7 AITにて